

「にれじいさん」が記事に!

本校のシンボルツリーとして愛称が決まった「にれじいさん」が新聞記事になり、紹介してもらうことができました。

今年は、10月に旭川聾学校同窓会創立70周年記念祝賀会が開催される予定ですので、そちらで紹介させていただきます。

同窓会の皆さんが、聾学校時代に思いをはせ、懐かしく思ってもらえると嬉しいです。

ペンタロウとも仲良くしていきます。皆さんよろしく!



「北海道通信 日刊教育版」

(令和8年8月10日付 3面掲載)



生成AIで作成したキャラクター

旭川聾 子の成長見守るニレの木 学校の歩み彩る新たな宝 「歴史の証人」シンボルに

本校のシンボルツリーとして愛称が決まった「にれじいさん」が新聞記事になり、紹介してもらうことができました。今年は、10月に旭川聾学校同窓会創立70周年記念祝賀会が開催される予定ですので、そちらで紹介させていただきます。

同窓会の皆さんが、聾学校時代に思いをはせ、懐かしく思ってもらえると嬉しいです。

ペンタロウとも仲良くしていきます。皆さんよろしく!

【旭川発】「学校の太木をシンボルツリーに」。爽やかな風が吹き抜ける旭川聾学校（門真義弘校長）の校庭に、堂々とたたずむ樹齢70年を超える「ニレの木」が目を引く。時代を超えて今、生成AIを使って児童生徒がその印象を具現化し、もう一つの姿が誕生した。これからの学校の歩みを彩る、新たな「宝」になりそう。

大正11年に旭川市内の常盤公園近くで「私立旭川盲啞学校」として創立した同校。昭和29年に現在の住吉地区へ移転し、それとほぼ同時期に校庭に植えられたニレの木の名は、同窓会の記念誌にも刻まれ、古くから学校に愛されてき

「にれじいさん」の愛称が公募で選ばれた。デザインは児童生徒のイメージをもとに生成AIで作成した。豊かな緑の葉を蓄え、優しい笑みを浮かべて両手を広げる温和な姿は親しみやすさと安心感のある印象に仕上がった。

72年間、同じ場所ですぐもたれ、子どもたちの輪に溶け込む「にれじいさん」として、もう一つの姿を得た。時代を超えても児童生徒にとつて、愛される存在であることは変わらない。これからも温かいまなざしで児童生徒の成長を見守り続ける。

「旭川発」学校の太木をシンボルツリーに。爽やかな風が吹き抜ける旭川聾学校（門真義弘校長）の校庭に、堂々とたたずむ樹齢70年を超える「ニレの木」が目を引く。時代を超えて今、生成AIを使って児童生徒がその印象を具現化し、もう一つの姿が誕生した。これからの学校の歩みを彩る、新たな「宝」になりそう。

大正11年に旭川市内の常盤公園近くで「私立旭川盲啞学校」として創立した同校。昭和29年に現在の住吉地区へ移転し、それとほぼ同時期に校庭に植えられたニレの木の名は、同窓会の記念誌にも刻まれ、古くから学校に愛されてき

わが校の誇り、学校文化の今とこれから



校庭にたたずむ樹齢70年超のニレの木